

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和3年度農作物病虫害発生予察情報について

令和3年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

令和3年度農作物病虫害発生予報第1号

令和3年4月28日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では, 発生圃場率が27.3%, 25株当たりの本田生息虫数は0.6頭と, 平年(18.2%, 0.9)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が4月22日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 天気は数日の周期で変わり, 平年に比べて晴れの日が多いと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し, 薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には, 薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので, 深水を避け, 根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%, 発病葉率が0.0%, 発病果率が0.0%)。
- (2) 令和2年9月第3半旬及び10月第3半旬の巡回調査では, 発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また, 令和3年3月第3半旬の芽基部の調査でも, 発病を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.8%, 芽基部発病率が0.2%)。
- (3) 高松地方気象台が4月22日に発表した1か月予報では, 気温はほぼ平年並で, 降水量は平年並か少なく, 日照時間は平年並か多く, 天気は数日の周期で変わり, 平年に比べて晴れの日が多いと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し, 防除に努める。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が32.9%、発病葉率が4.0%)。
- (2) 高松地方気象台が4月22日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、天気は数日の周期で変わり、平年に比べて晴れの日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが、5月上旬頃まで飛散する可能性があるため、防除暦に準拠し、防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年より早い

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、6地点で越冬を確認した。越冬成虫は0.8頭/m²であり、平年(2.3頭/m²)並の越冬密度で、前年(成虫確認地点数は5地点、越冬成虫数は0.7頭/m²)並であった。
- (2) 今春の予察灯調査においては、勝浦町では平年(4月22日)より21日早い4月2日に、上板町では平年(4月25日)より13日早い4月13日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。なお、4月第1半旬～5半旬までの誘殺数は、平年並で推移している。
- (3) 高松地方気象台が4月22日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、天気は数日の周期で変わり、平年に比べて晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が9.2%、発病株率が0.9%)。
- (2) 高松地方気象台が4月22日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、天気は数日の周期で変わり、平年に比べて晴れの日が多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。
- (2) 発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (3) 罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので、速やかに圃場外で処分し、病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が77.8%と平年(76.0%)並の発生であるが、被害度は3.

1と、平年(5.2)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が4月22日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、天気は数日の周期で変わり、平年に比べて晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、葉の被害度が0.2と、平年(78.3%、3.8)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が4月22日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多く、天気は数日の周期で変わり、平年に比べて晴れの日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。

(2)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(3)被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

(4)春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

1)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。